



2024年度県予算要望 266項目

くらし・地場産業

真の男女共同参画 ジェンダー平等を 女性グループと懇談

12月県議会に提案される「千葉県多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の形成の推進に関する条例案」について、11月17日、県内の女性グループと懇談しました。(下写真)

同グループは「条例案が男女共同参画を包含していること(県の言い分)に違和感を感じる。基本法のもとに条例は作成されなければならない」「全ての人が基本的人権を尊重し、多様性を認め合うことが基本。その人らしく生きることが出来る社会をつくるための条例であることを明記すべき」「条例案は再検討の余地が大である。拙速に策定しないこと」などの提案をしています。

率直な意見交換ができました。



左から：加藤英雄、みわ由美、浅野ふみ子、さいとう和子(元衆院議員)、丸山慎一

人権をまもる千葉県政に

加藤英雄、丸山慎一、浅野ふみ子、みわ由美の各県議と小倉忠平党県委員長は11月16日、知事宛に来年度県予算について、266項目の要望を行いました。(左上写真)

要望の柱は、物価高騰から県民の暮らしと地場産業支える自治体の責務を果たし△コロナ危機を乗り越えて社会保障を拡充する△8時間働けば普通に生活できる▽教育予算の大幅増額▽気候危機打開と食料自給率向上に貢献する▽ジェンダー平等、誰もが自分らしく生きられることなどです。

加藤県議は「災害時の避難所にもなる高校の体育館などへのエアコン設置」、丸山県議は「三番瀬の保全」、浅野県議は「教員不足の解消」、みわ県議は「子どもの医療費完全無料化」をそれぞれ強調しました。小倉委員長は共産党の経済再生プランを紹介し、千葉県を「戦争する国づくり」の足場にさせないよう求めました。

対応した穴澤幸男副知事は「担当部署と共有し、市町村とも意見交換する」と述べました。

要望書の全文⇒



12月県議会 11月22日開会

浅野ふみ子県議 本会議初質問

12月4日(月) 午後2時頃

ぜひ、傍聴にお越しく下さい

中小零細事業者の 営業と暮らしに 支援を

千葉県商工団体連合会は11月10日、県に苦境を訴え、支援を求めました。(左写真)

